

2024年産水稻種子の異品種混入(コンタミ)防止チェックリスト

「純粋性」「健全性」「良質」を兼ね備えた信頼される優良種子を生産しましょう!

「優良種子生産の手引き」等を参考に採種作業をしてください。

異品種混入の主な原因(一般栽培)

- ①こぼれ粉(漏生) …前年産と異なる品種の作付
- ②種苗の入手 …品種の間違い
- ③種子処理 …消毒・播種等の際の品種混同
- ④種蒔き時 …播種機の清掃不備
- ⑤育苗時 …苗の取り違い
- ⑥田植時 …苗の植え違い
- ⑦収穫時 …コンバイン等の機械の清掃不備
- ⑧乾燥調製 …乾燥調製機等の清掃不備

異品種混入(コンタミ)防止のポイント

3月

ほ場準備・種子予措

チェック欄

- ①栽培履歴・GAPシートを作業毎に点検・記載する。
- ②作付品種は、一般栽培用と採種品種は同一とする。(隣接のほ場は、同一品種とする。)
- ③種子用は原種を100%使用する。なお、品種名と数量を確認し、一般栽培用とは別に保管するとともに、播種作業までは専用のネット袋からは出さない。
- ④種子用と一般栽培用のネット袋にはそれぞれに名札等を付けて区別する。
- ⑤消毒・播種は、必ず種子用を一般栽培用の前に行う。また、成熟期の近い品種を作付する場合は、作期分散と交雑防止のため播種日の間隔を長くする。

4月

育苗

チェック欄

- ⑥播種機は、種子専用とするか、一般栽培用を使用する場合は十分清掃し、残留粉を取り除き、種子用を先に播種し、作業後は十分清掃し、こぼれ粉は廃棄する。
- ⑦育苗ハウスは、種子用と一般栽培用に分け立て札等を設置し、品種名と播種月日を表示する。
- ⑧育苗箱も、種子用の印等を必ず付ける。

5月

移植作業

チェック欄

- ⑨苗取り、運搬には、複数人で品種を確認し取り違いのないよう十分注意する。
- ⑩種子用を先に移植する。
- ⑪適正な株数(60~70株/坪)を移植し、さし苗(補植)は行わない。
- ⑫移植後、速やかに採種ほ場であることを示す立て札を設置する。
- ⑬前年と異なる品種を作付する場合は、こぼれ粉(漏生イネ)等を早期代かきや除草剤(プレチラクロールを含む初期剤)等により的確に処理する。

6月~8月

ほ場管理・収穫作業の準備

チェック欄

- ⑭漏生株や浮き苗は確実に抜き取る。(畦畔周辺も入念に行う。)
- ⑮出穂初期、穂揃い期に、混種・変種株、雑草イネ、病害等は株ごと抜き取る。
- ⑯混種・変種株等の雑穂等抜きは、収穫まで最低4回は行う。(分けつ最盛期、出穂期前後、穂揃期10日後頃(登熟期)、成熟期(収穫前))

6月~8月

ほ場管理・収穫作業の準備

チェック欄

- ⑰ほ場に空きビン・空き缶等がないか点検し、異物の混入防止を図る。
- ⑱コンバイン・乾燥機、運搬、調製、出荷用等の機械類は整備・清掃を徹底し、残量粉を取り除く。

9月~10月

収穫作業

チェック欄

- ⑲採種ほ場を立て札等で再確認する。
- ⑳コンバイン・フレコン等は、種子専用とし、種子専用とわかるよう印等を明記する。(機械利用組合等では、専用コンバイン等を決める。)
- ㉑ほ場確認で刈り分けの指示又は倒伏した場合は、適正に刈り分けを行い、種子としない。
- ㉒収穫の順序は、最初に採種ほ場の収穫を行い、その後一般栽培用の収穫を行う。
- ㉓試し刈りをして品質を確認する。また、その年の最初に収穫した3袋(100kg程度)は種子にせず乾燥・調製機械を通して排出した後に収穫・乾燥・調製を行う。
- ㉔コンバインの機内残留粉は、毎日作業終了時に取り除く。

乾燥調製作業

チェック欄

- ㉕乾燥時には、乾燥機に品種名及び種子用・一般栽培用の表示をする。
- ㉖乾燥機の周辺等は常に清潔を保ち、こぼれ粉等は廃棄する。
- ㉗紙袋で出荷する場合は、紙袋・品種名を確認し袋詰めする。
- ㉘乾燥粉で種子センターへ搬入する場合は、搬入までの間は保管するフレコン等には名札を付し、温度・湿度の変化の少ない場所で保管する。また、搬入する際は、品質等を種子センター職員とともに確認する。

出荷作業

チェック欄

- ㉙収穫後、生粉で種子センターへ搬入する場合は、品種・コンテナ等を確認し、速やかに行う。また、搬入する際は、品質等を種子センター職員とともに確認する。
- ㉚出荷する種子の紙袋、記載事項、搬入するフレコン等の名札等を確認し出荷する。
- ㉛栽培履歴・GAPシートを種子の出荷・搬入に併せて提出する。
- ㉜出荷・搬入に当たっては、JAの種子担当者の指示に従う。
- ㉝翌年の異品種混入を防止するため、収穫調製等に使用した機械の清掃を行い残留粉を取り除く。